



学校だより 2月 第353号

令和2年1月31日 発行

横浜市立六つ川西小学校 (TEL) 742-6301 (FAX) 743-2394

URL <http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/es/mutsukawanishi/index.html>

「いい塩梅」を探り続けること

学校長 小倉 睦

ニュースによると、新型コロナウイルスが猛威を振るい世界各地の感染予防対策が声高に叫ばれています。人類を脅かすウイルス感染が一日も早く終息を迎えることを願わずにいられません。

先日の迷惑電話の対応におきましては、保護者、地域の皆さまにご心配をおかけしまして大変ご迷惑をおかけしました。また、土曜参観におきましても、学校職員への温かい声かけ、力強い励ましの言葉をいただきまして本当に嬉しく思いました。これを機に、子どもたちの安全につきましては、門の施錠、扉の閉鎖の確認などより一層、凡事徹底を図ってまいりたいと思います。今後とも宜しくご支援の程、お願い申し上げます。

この冬は、雪不足や寒くない寒の入りなど、暖冬が続いております。六つ川西小学校でも、2年生の大根が例年よりも大きく育ったり、マラソンコースのスイセンも早い時期から花芽を膨らませてきたりするなど、暖冬の影響を受けているようです。

ところで、立春を間近に控え、各地から梅のたよりが寄せられるようになりました。日本では、古くから梅の姿にさまざまな意味を込めてきました。あでやかに開いた咲きはじめの花と、これから次々と花開こうとするつぼみ。その様子は家の末永い繁栄を思わせ、めでたいものとされてきました。また、寒さの厳しい冬に咲きはじめる梅は、一輪、また一輪と開くたびに、少しずつ春が近づいてくることを感じさせてくれます。

梅には、それにまつわる様々な話があります。厳しい修行に励むお寺のお坊さんは「梅は寒い中にも花開きます。禅僧は、修行に苦しむ自分を梅に置き換えて、いつかこの梅の花のように花開くときが来ると考えてきたようです。

松と竹は冬の寒さに耐えて緑を保ち、梅は寒さの中、百花に先がけて花を咲かせることから、「松・竹・梅」を縁起物の一つとして、祝い事の飾りなどに使われるようになったと言われています。

また、現在の「お酢」ができるまでは、酸味と塩味

で料理の味をよく引き立てる「梅酢」が調味料として使われていました。そのことから「塩梅」(あんばい)という言葉は、料理用語として使われていたのですが、その後、とても具合の良いことを「いい塩梅」(いいあんばい)というように幅広く使われるようになりました。

実は、六つ川西小学校の先生たちは、毎日の授業において教えた内容や子どもたちへのかかわりが「いい塩梅」(いいあんばい)だったかどうかを常に振り返るようにしています。

子どもたちを自主的に学ぶことができるようにするために、教師は「待つ」ことを意識することがあります。何かを教える時には、一方的に伝えるのではなく、子どもたちの様子をとらえ、「いい塩梅」に行くことが不可欠です。授業では、大学の講義のように次から次へと教師がしゃべり続けてしまうと、子どもたちは、自分自身で考えることをせず、指示を待つ習慣ができてしまいます。そうすると、先生が何か言わないと何もしない、言われれば動くという受け身の姿勢が身に付いてしまいます。

六つ川西小学校では、4月からスタートする新指導要領に向けて、自ら問題を見つけ、その解決に向けて周囲の人との対話を通して解決に結び付けていく「主体的、対話的で深い学び」を視点にした授業を模索しています。主体的な学びをつくるためには、子どもたちの意欲を引き出し、自主的に学ぶ環境を整えることが重要です。そのためにも、日々の教育活動では教えること、子どもたちの反応を引き出すことが「いい塩梅」になるように最も注意を払っています。

2月から3月にかけては、どの学年も学習の成果のまとめを行っていきます。今後もお一層「いい塩梅」の指導方法を探り続けていくことこそ、教職員の使命と考えております。

保護者、地域の皆様、今月も様々な面でお力添えをくださいますよう、よろしく申し上げます。